「当たり前」から「ありがとう」へ

小学６年　西口　心結

「自分でだし巻き卵を作ってみる！」

私は四年生の時、毎朝五時に起きて、お弁当を作ってくれる母に言った。私は母が作る、だしをしっかりとった、甘い卵焼きが大好きだ。母と同じように簡単に作れる気がした。でも実際はだしをとるのも面倒だし、きれいな形に作れず苦戦した。焦げてしまって、見た目が悪い卵焼きを母は自分のお弁当に入れて会社へ持っていくようになった。

「心結の作る卵焼き、本当に美味しい！作ってくれてありがとう、お昼がとても楽しみよ。」と母の言葉が嬉しかったと同時にはっとした。私は毎日、ありがとうという言葉を言えただろうか。言えていない自分がとてもはずかしくなった。

先日、祖母の法要で法話を聞く機会があった。

「当たり前」の反対語は「有り難いもの」から「ありがとう」であるという話だった。母は一日も休むことなく、お弁当を作ってくれた。本当にすごいことだと思う。私はバレエをやっているので、栄養のことだけでなく、太らないように身体のことにも気をつかってくれて

いる。感謝の気持ちでいっぱいだ。

母は、

「マンネリなお弁当でごめんね。」

と言うけれど、母の愛情たっぷりのお弁当で私の体はできている。今日も、私が作っただし巻き卵はどうかな？とお弁当の時間に母を思い浮かべながら、感謝の気持ちで頂く。

「当たり前」と思ってしまうことに気づき、「ありがたいこと」に感謝の気持ちを忘れずにいたい。

六年間本当にありがとう。そしてこれからもよろしくね。